
箱庭

藍色ありす

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

箱庭

【Nコード】

N3967T

【作者名】

藍色ありす

【あらすじ】

僕は、いつの間にか場所についていた。
ここがどこなのか、
なぜいるのか、僕にはまったくわからない。

ハジマリの庭

いつも通りの一日だった。

むしろ、運のいい日だったかもしれない。

少し上機嫌で家に向かっていているはずだった。

「あれ？こんな木あつたっけ？」

綺麗な紅紫の花が咲いた木が家の前の庭に咲いていた。

「綺麗だな……」

触ろうとした瞬間、

僕は知らない場所に立っていた。

ここはどこだろう……

遠巻きにぽつん、ぽつんとさまざまなカタチの庭が見える。

いろいろな花が咲いたものもあれば、

一色だけの庭、

花なのかもわからない庭もある。

「あ……ヲ……めヨウ……」

誰かの声が聞こえた気がした。

ああ、思い出したハナズオウだ。

確か昔住んでいたマンションの近くにあった……

「さア、サンぽヲはじめよう。」

誰かの声に導かれるように、

僕は静かに歩き始めた。

ハナズオウ（疑惑、目覚め）

恋人達の箱庭（前書き）

最初についた庭には何もなかった。

ただ、薄い桃色の着物を着た女の人が水を撒いていた。

彼女を見ていると彼女は僕を見て微笑んだ。

恋人達の箱庭

貴方は私の行動が不思議なのでしょう？

貴方から見れば何もない庭に、

水を撒いているだけですものね。

でも、貴方から見れば何もない庭でも

私には見えているのです。

彼を包む真つ赤な彼岸花が…

「では、私は失礼します。」

彼女は僕に軽く頭を下げると、

僕を通り過ぎて、道の向こうに消えていった。

しばらく彼女が消えた方向を見つめていると、

入れ違うように1人の男が庭へやってきた。

「こんばんわ」

彼は僕に微笑むと、静かに庭の真ん中へと歩いていく。

ちょうど真ん中に立った時、

彼はゆっくりと彼岸花の花束を置き、

そつと手を合わせる。

「貴方は彼女の…」

彼は立ち上がると、少し驚いた顔をして悲しそうに笑った。

「ええ、ここは私の死んだ場所です。

彼女と一緒に、ね…。」

僕は妙に落ち着いて彼に笑い返した。

「ああ、やっぱり…。」

彼女の見た彼岸花は…。」

僕は彼が頷くのを見ると、彼の横に行き手を合わせた。

「では、私はこちら辺で…」

僕がもう一度彼女が消えた方向を見ていると彼が言った。

「はい、お元気で。」

彼は笑って僕の横を通り過ぎると、そっと僕の手には彼岸花を一輪渡した。

「彼岸花は、私達の象徴です…。」

彼らの小さな箱庭には、彼岸花が咲き乱れているのだろう。彼らにしかわからないきれいな彼岸花が…。

彼岸花（花言葉 悲しい思い出）

次の庭への道？

彼達の庭を出た後、また声が聞こえた。

「かれヲノにわはどうだつタ？」

僕は何もない空を見上げた

「僕には靈感などなかったはずなんだが」

そうだ、今まで僕は霊のようなモノは見たことがない。

「はハハ、なにヲいつてイルンだい？」

乾いた笑い声が聞こえる

「いまココニイルことがしんレいたいけんだろう？」

確かに。気がついたらわけのわからない場所にいたなんて、

「なんであそこから成仏できないんだろう。

彼女は本当に気づいていないのだろうか？」

自分が：

「自分が死んでイルこと二？」

妙にはつきりと男の声が聞こえた

「ああ、なぜだ？」

「さあネ、ぼくにハわかラないヨ。

カノジヨたちにシカネ」

男は投げやりに答える

さあ、つぎノにわ二つくヨ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3967t/>

箱庭

2011年10月5日20時20分発行